

長等の防災

2023年2月24日発行

第8号

ながらまち協自主防災会
発行責任者 山本一男



ながらまち協自主防災会

会長 山本一男

令和5年があけましてはや2ヶ月が過ぎようとしていますが、まだまだ寒い日が続いていますので、体調管理には充分気をつけて頂きたいと思います。

さて、令和4年度の事業も関係各位また自治会の皆様のご理解ご協力により、無事に終了する事ができました。改めまして御礼申し上げます。

11月に行いました学区自主防災訓練につきましては、この広報にて掲載させていただきますが、参加人数をコロナの状況を考え制限しながら、また子供達にも参加して頂くという初めての試みもさせて頂きました。



今後の防災訓練も各世代の皆様に体験できるような訓練になるよう、取り組んでいきたいと思っています。

本年度の一つの課題として、長等学区地区防災計画の作成がありましたが、ようやく内容が決まりましたので、概要を報告させていただきます。今回の広報と同時にハザードマップ等も配布させていただきますので、長等学区内の災害の起こりうる地域の確認をして頂き、防災への一助になりますよう各ご家庭で保存をよろしくお願い申し上げます。

令和5年大津市消防出初式開催

年始め恒例の出初式が、1月8日(日)に約1,200名が参加し、大津市民会館及びびなぎさ公園で開催されました。



第一部の式典では、各種表彰・感謝状の授与が行われ、長等学区では長年の功労に対して、次の方が受賞されました。

◇優良消防団員表彰

○県消防協会会長表彰

久保 安夫さん(勤功表彰・石橋町)
岡本 隆彦さん(30年勤続表彰・北保町)
山中 正弘さん(10年勤続表彰・大津京パークワイツ)

清水 章智さん(10年勤続表彰・神出)
内田 真太郎さん(精励表彰銀賞・石川町)

○県消防協会大津支部長表彰

秋本 旭さん(ブランズ西大津)
井元 潔さん(山上町)

○特別表彰

長等分団(滋賀県消防操法訓練大会入賞・小型ポンプの部)

第二部の訓練では、行進、演奏、消防活動訓練、一斉放水などが行われ、長等分団団員、長等学区自主防災会役員が参加しました。

事務局から

今号は内容が決まりました「長等学区地区防災計画」の概要を掲載しました。これと別に長等学区の防災マップと各世帯向けチラシを配布しますので、ご家庭で常備してご利用ください。

長等学区地区防災計画の概要

長等学区では、地域の防災力を高め、災害時の被害を最小限にするため、「長等学区地区防災計画」の作成を進めてきましたが、このほど計画を決定しましたのでその概要を紹介します。

計画は、まちづくり協議会の構成団体等による防災体制（学区災害対策本部）の整備と各自自治会の防災活動の充実を柱としています。（詳細は、ながらまちづくり協議会のホームページに掲載しています。[ながらまち協防災計画](#) [検索](#)）

また、今回は長等学区の防災マップ（ハザードマップ）と各世帯向けチラシも配布しますので、そちらの方もご覧ください。



長等学区地区防災計画（概要）

○基本的な考え方

- ・長等学区の住民（自治会）とながらまちづくり協議会が一体となって地域防災力を高め、自助、共助、公助の力を合わせて災害時の被害を最小限にする。

○防災活動の内容

（１）防災活動の体制（班編成）

ながらまちづくり協議会の構成団体、学区内防災士により防災活動の体制を次のとおり整備し、平常時および災害時において、各地域自主防災会（自治会）および学区民を支援する。また、今後、各自治会からの参加についても検討する。

〔ながらまちづくり協議会防災体制 組織図・役割分担〕

班名	担当者 (団体名等)	平常時の役割	災害時の役割 (学区災害対策本部)
総務班	自治連合会 自主防災会 防災士	全体調整 関係機関との事前調整	全体調整 関係機関との調整 被害・避難状況の全体把握
情報班	社会福祉協議会 自主防災会 防災士	啓発・広報 情報伝達方法の決定 連絡網の作成	学区内住民および公共機関等からの情報収集・伝達
消火・救出救護班	青少年育成協議会 自主防災会	資機材・器具の整備・点検	消火器・バケツリレーなどによる地域自主防災組織による初期消火の支援 負傷者の救出・応急手当・救護所への搬送
避難誘導班	民生委員児童委員協議会 自主防災会	避難経路の点検 避難行動要支援者の支援体制の整備	住民の避難誘導 避難行動要支援者への支援 在宅避難者への支援
給食給水班	体育文化連盟 自主防災会	資機材・器具の整備・点検	炊き出し等の給食・給水活動 市等への備蓄品の要請

（２）地域自主防災会・自治会の活動

日常の活動

- ・住民は、家具の転倒防止、家庭内備蓄を行う。（購入→備蓄→消費）
- ・住民は、家族および地域自主防災会単位で避難場所、避難経路、避難所の確認を行い、各地域自主防災会においてひな型を参考に防災マニュアルを作成する。（次項参照）
- ・住民は、各世帯および地域自主防災会単位で防災資機材を整備する。
- ・地域自主防災会は、防災マニュアルに基づき年１回、避難訓練・研修を実施し、各世帯への緊急連絡体制を整備する。また、避難行動要支援者の把握に努め、その情報を共有する。

災害時

- ・住民は、台風や大雨が予想される場合、テレビ、ラジオ、防災メール等により気象情報を確認し、地域自主防災会内で共有する。
- ・発災後、住民および地域自主防災会は次のとおり対応する。（各世帯向けチラシを作成）
ア 身の安全確保 イ 出火防止、初期消火
ウ 住民同士の助け合い・救助・救出・避難支援

○実践と検証

- (1) 学区防災訓練の実施（11月）
- (2) 防災意識の普及啓発
（研修会の開催・年1回）
- (3) 計画の見直し
（毎年3月末までに必要に応じ見直し）



地域自主防災会自主防災マニュアル〔ひな型〕

なお、各地域自主防災会（自治会）で作成する防災マニュアルのひな型は次のとおりです。
学区自主防災会がお手伝いしますので、これを参考に、各自治会にふさわしいマニュアルづくりをご検討ください。

〇〇〇町地域自主防災会 自主防災マニュアル

1. 自主防災組織

- 〇〇〇町自治会内の助け合い（共助）のための組織であり、その範囲内で活動を行う。
- 災害時の諸活動は自治会員の合意のもとに行う助け合いの活動であり、役員（班員）に災害時の出動義務はなく、その結果について役員（班員）が責任を負うことはない。
- 班は自治会の規模に応じて設置を考える。

2. 資機材の整備

- 優先度の高いものから自治会で購入し保管する。

3. 避難場所

(1) 1次避難場所

- 災害発生時（緊急時）に身の安全を確保し、町内で情報共有できる場所（1次避難場所）を自治会内で指定する。〈 〉

(2) 2次避難場所

- 自治会から移動が必要な場合の避難場所（2次避難場所）を確認する。
〈 グラウンド〉

4. 緊急連絡体制

- Web 等も利用しながら、全世帯への緊急連絡体制を整備する。

5. 日常の活動

- (1) 連絡体制の確認
- (2) 防災・防火訓練の実施（原則年1回）
- (3) 研修会の開催（原則年1回）

6. 災害時の活動 ※地区防災計画の各世帯向けチラシを参照

(1) 風水害対策

- 台風や大雨による災害の発生が予想されるとき
- 避難に関する情報が発令されたとき
 - ・ 自治会単位で声をかけあって対応（自治会に合った内容で）

(2) 地震災害対策

- 地震が起こったら
 - ・ どこにいても落ち着いて、自分や家族の身の安全を確保する。
- 消火活動・救出活動・避難行動
 - ・ 自治会単位で声をかけあって対応（自治会に合った内容で）



11月13日（日）、コロナ禍により3年ぶりの実施となりましたが、自主防災訓練を実施しました。

当日の天気が雨でしたので、すべてのコーナーを長等小学校の体育館にて実施。今年は長等小学校PTA、長等幼稚園のPTAにもご協力頂き、子ども連れでも参加頂きました。子どもも熱心に聞き入る姿が印象的でした。

1. 水防訓練

水害発生時での、土のうの作り方や積み方を訓練しました。



2. 大津版ファーストコンタクト訓練

災害発生直後の安全管理、生存者の搜索、救出方法などについて訓練しました。



3. 避難所運営

今年は、大津市が避難所で活用するために購入したテントを、実際に体験しました。



4. 搬送・応急手当

簡易担架作成・搬送、心肺蘇生、AEDの取り扱いについて訓練しました。



4つのコーナーにて体験訓練終了後、閉会式を経て非常食のアルファ米を試食に配布し、無事終了しました。役員一同、今回も実施できたことにより、長等学区の防災力の向上につながると感じております。次年度以降も、より多くの方にご参加頂きますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、ご協力頂きました中消防署、長等分団の皆様には厚く御礼申し上げます。

